WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

（2026年10月）

■ 10月のパフォーマンス

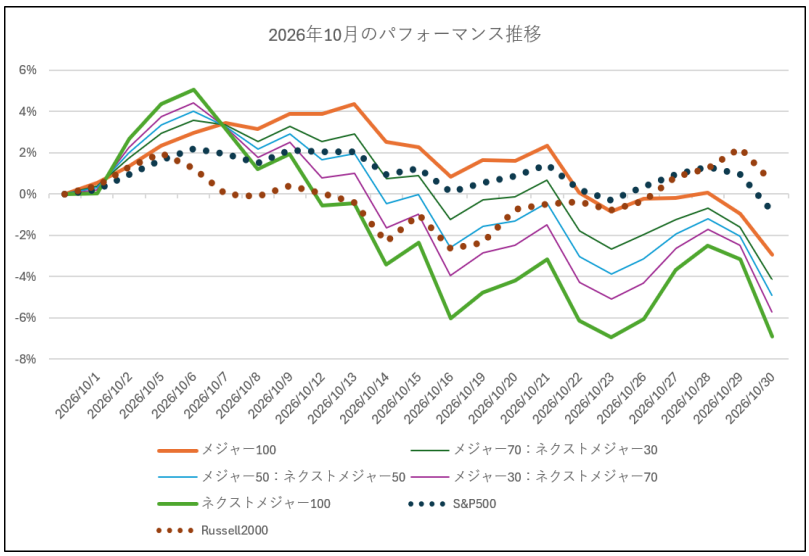
➢ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	▲2.94%
ネクストメジャー100	▲6.91%

➢ 各指標の月間騰落率

S&P 500	▲0.93%
Russell2000	▲0.54%
NY ダウ	+1.70%
NASDAQ	▲5.30%

➢ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク（%）	超過収益
1位	メジャー100	-2.94%	S&P500	-0.93%	-2.00%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	-4.13%	S&P500（70%）Russel2000（30%）	-0.49%	-3.64%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	-4.93%	S&P500（50%）Russel2000（50%）	-0.20%	-4.73%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	-5.72%	S&P500（30%）Russel2000（70%）	0.09%	-5.82%
5位	ネクストメジャー100	-6.91%	Russel2000	0.54%	-7.45%
	全戦略平均	-4.93%			-4.73%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussell2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

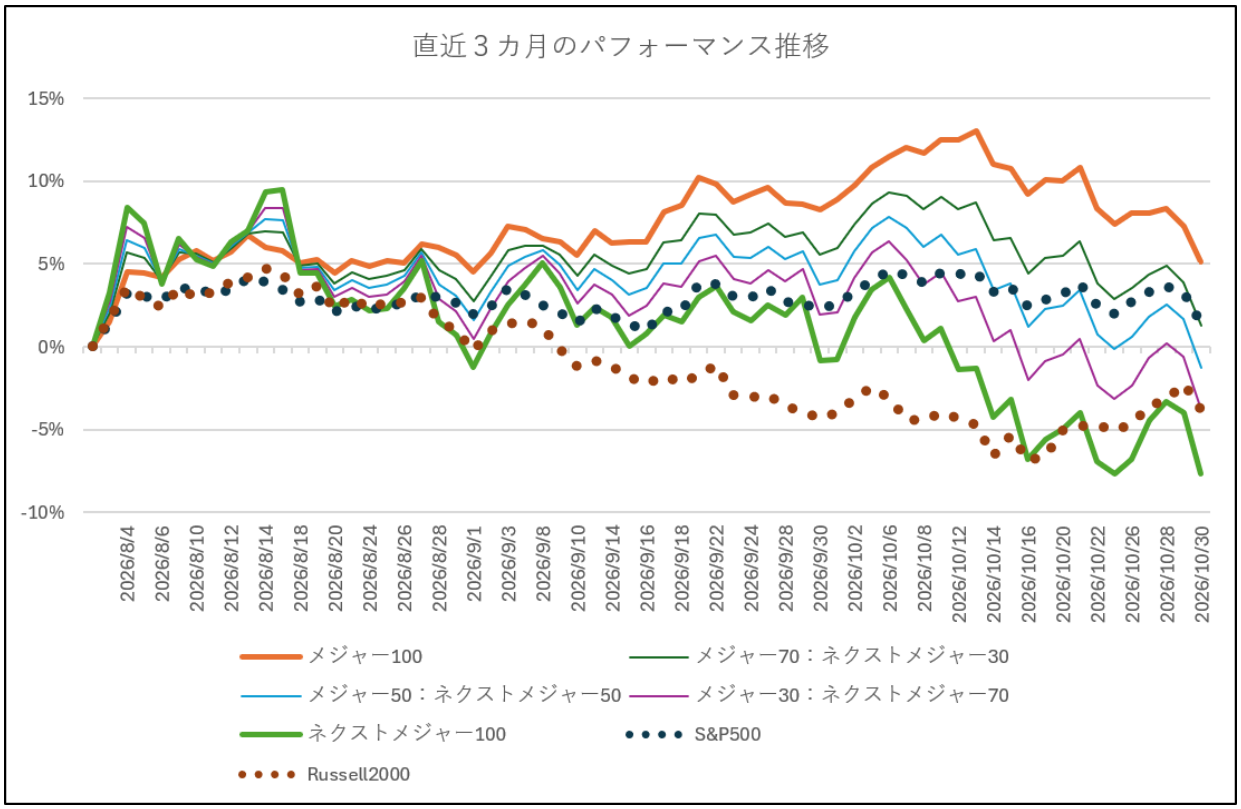
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

※端数処理の関係で差分が一致しない場合があります。

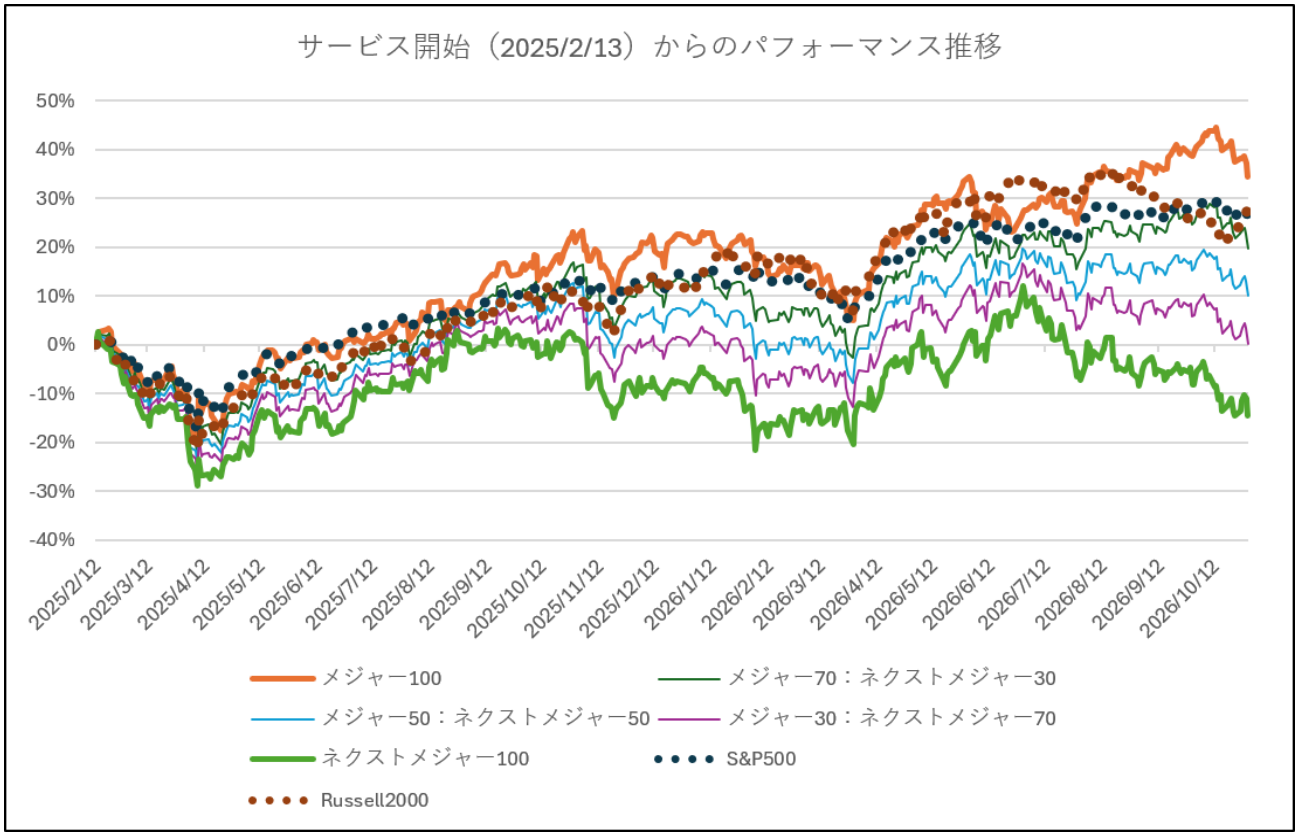
WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で▲2.94%、対ベンチマーク超過収益では▲2.00%となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

➢ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



- 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年10月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

- 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年10月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	-2.94%	5.14%	9.08%	10.19%	34.53%	1.15	2.30
ネクストメジャー100	-6.91%	-7.68%	-10.94%	-15.51%	-14.46%	0.22	0.31
S&P500	-0.93%	1.45%	5.62%	11.32%	25.82%	1.33	2.75
Russell2000	0.54%	-3.82%	1.09%	14.12%	25.44%	0.80	1.44

-

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。
※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。
※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■ 10月の市況概況

➢ 米国市場

10月の米国市場は、インフレ再燃とFRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め長期化懸念、ならびにAIインフラ投資に対する過剰債務・収益化への懐疑論が交錯し、ボラティリティの高い波乱の展開となりました。月前半は雇用減速を受けた利上げ観測後退で指数は最高値を更新したものの、CPI（消費者物価指数）やPPI（生産者物価指数）の上振れやAI新興企業の信用不安、巨大テック企業の設備投資負担が重石となり、後半にかけて大幅な調整を強いられました。

・第 1 週（10月1日～10月2日）／ダウ平均：+0.53% S&P 500：+0.93% NASDAQ：+1.23%

雇用統計下振れで利上げ観測後退

米10年債利回りが一時5.34%と約24年ぶりの高水準に達したものの、アクセンチュア等の好決算を背景にIT・コンサル主導で反発しました。週末発表の9月米雇用統計では非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に下回り、失業率も若干ながら悪化しました。労働市場の減速を受けてFRBによる追加利上げ観測が後退し主要指数は揃って急伸しました。

・第 2 週（10月5日～10月9日）／ダウ平均：+0.93% S&P 500：+1.15% NASDAQ：+0.64%

ナスダック最高値更新も、原油急騰とAI減速懸念で反落

ナスダック総合指数が最高値を更新するなど堅調なスタートとなりましたが、WTI原油が93ドル台へ、長期金利が一時5.36%へ上昇したほか、9月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）議事要旨でのタカ派姿勢やOpenAIの売上高下振れ報道が重石となり主要3指数は一時反落しました。しかし、週末にかけては値頃感から押し目買いが入り反発しました。

・第 3 週（10月12日～10月16日）／ダウ平均：+0.67% S&P 500：▲1.95% NASDAQ：▲4.48%

CoreWeave信用不安、ハイテク主導で急落

9月のCPIが前年比3.7%、PPIが同6.3%とインフレ再加速を示し早期利上げ観測が急浮上しました。さらにAIクラウド新興コアウィーブの社債急落を契機に過剰債務問題が表面化し、ナスダックが511ポイント安と急落しました。16日も同社株安からハイテク売りに拍車がかかり、ナスダックは573ポイント安と再び急落しました。

・第４週（10月19日～10月23日）／ダウ平均： +0.41%、S&P 500：▲0.47%、NASDAQ：▲0.71%

原油一時110ドル突破とAI設備投資負担懸念

中東緊迫化で原油先物が一時1バレル110ドル台へ急騰しました。週前半は好決算を背景にダウは反発しましたが、後半メタが設備投資見通しを引き上げたことで投資回収遅れ懸念が再燃しナスダックは急落しました。週末には中東での戦闘激化懸念から原油が再急騰し、幅広いセクターに売りが波及し指数は揃ってマイナスとなりました。

・第5週（10月26日～10月30日）／ダウ平均：▲0.85%、S&P 500：▲0.57%、NASDAQ：▲2.00%

FOMC据え置きもインテル急落で続落

FOMCでの金利据え置き（3.75～4.00%）を通過したものの、巨大ITでAI投資増に伴うフリーキャッシュフロー悪化が嫌気されました。さらにインテルの見通し下振れによる一時30%超の急落が半導体株全体に波及し、30日は主要指数が大幅続落して月を終えました。

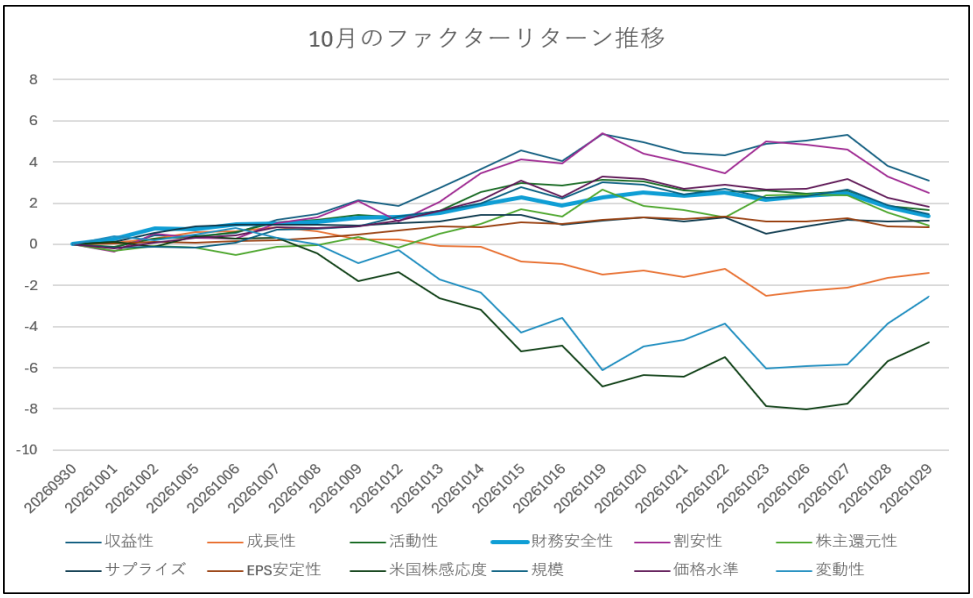
■月間パフォーマンスの背景

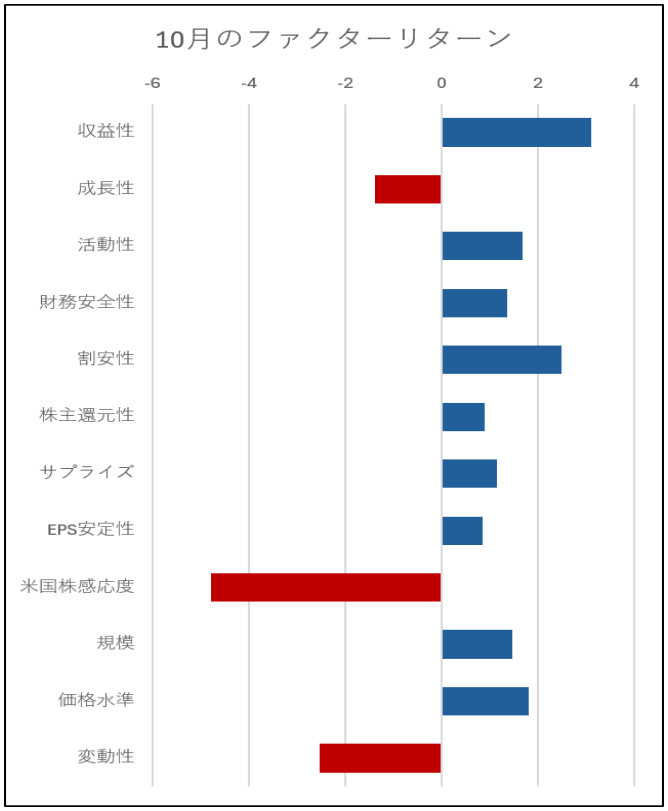
- ファクター動向

10月は、割安な大型ハイクオリティ株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、収益性ファクター・割安性ファクター・規模ファクター・活動性ファクター・財務健全性ファクター・EPS安定性ファクター・サプライズファクター・株主還元性ファクターがプラスとなる一方、米国株感応度ファクター・変動性ファクター・成長性ファクターが大きくマイナスとなりました。

AI企業に対する信用不安及び収益化懸念、巨大IT企業のフリーキャッシュフロー悪化懸念、中東情勢の緊迫化、さらに米中間選挙を控えリスクオフが急速に強まるなか、ディフェンシブ色の強い割安な大型ハイクオリティ株へ資金が向かったことが見て取れます。





➢ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

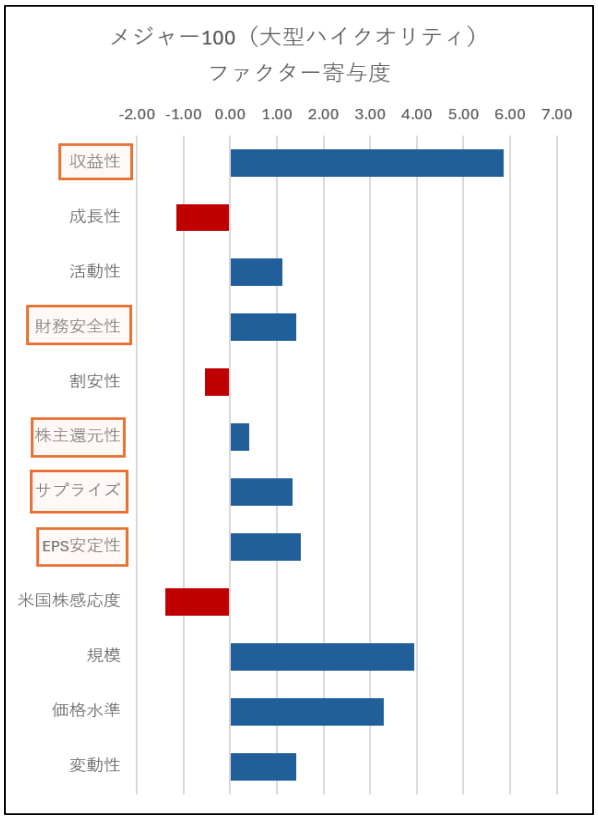
メジャー100（大型ハイクオリティ）がS＆P500をアンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「高収益・好業績・財務健全・安定したEPS・高配当」特性がプラスに寄与したものの、「市場平均よりもオーバーウエートとなっている米国株感応度（＝ハイベータ）及び成長性（＝高成長）」といった特性が大きくマイナスに寄与しプラス要因を打ち消したためです。

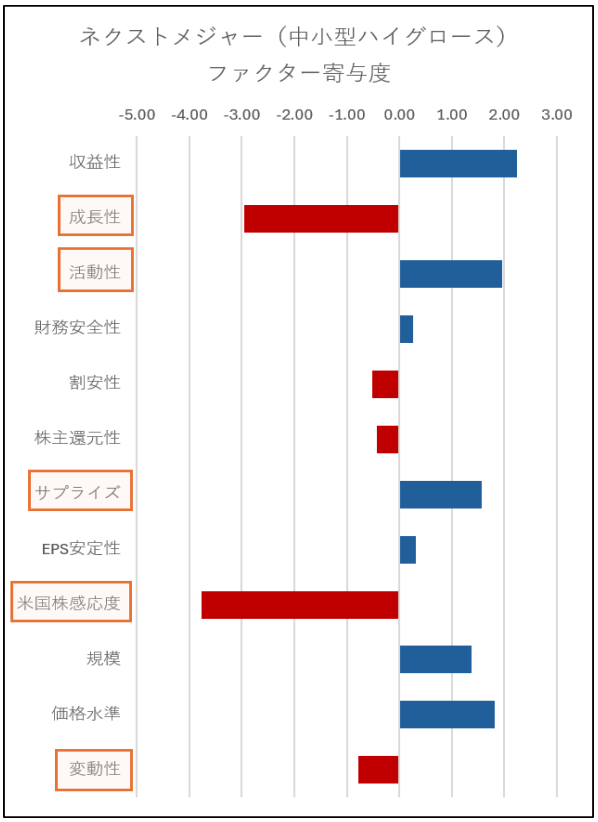
ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussell2000をアンダーパフォームした要因は、

ネクストメジャー100の特徴である「高成長・高米国株感応度（=ハイリスク）」特性が大きくマイナスに寄与したためです。

10月は、これまで市場を牽引していたAI関連銘柄への疑心暗鬼が醸成され、大きな転換点となりました。

ローンチ以降、極めてハイリスクな相場環境が継続しておりますが、引き続き丁寧なリスク管理を行いながら、成長株をご提供してまいります。





➢ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ）　寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	V	ビザ	10.5%	1.446%
	世界最大の決済ネットワークおよび決済処理サービスを提供。2026年9月通期（2025年10月～2026年9月）は増収、営業増益となり、年間配当は13期連続の増配となりました。景気変動への耐性、非常に高い営業利益率、そして付加価値サービス（VAS）の拡大に伴う持続的なキャッシュフロー創出能力が高く評価されています。			
2	LLY	イーライリリー	6.0%	1.197%
	世界的な大手製薬会社。糖尿病・肥満症治療薬「マンジャロ（Mounjaro）」および「ゼップバウンド（Zepbound）」の世界的人気が業績を力強く牽引しています。世界的な生産能力の増強が進 み、通期の業績に対しても強気な姿勢を見せています。GLP-1受容体作動薬市場における主導権に加え、アルツハイマー病治療薬や次世代経口薬など強固なパイプラインが高く評価されています。			
3	MPC	マラソン・ペトロリアム	5.0%	0.581%
	米国最大級の独立系石油精製・販売会社およびミッドストリーム（MPLX）事業。強固な精製マージンを背景に潤沢なフリーキャッシュフローを創出しており、年間100億ドル規模の自社株買いや継続的な増配を実行しています。精製業界屈指のコスト競争力と、積極的な株主還元姿勢が市場から安定した支持を得ています。			
4	AAPL	アップル	11.1%	0.375%
	iPhone、Mac、iPadなどのハードウェア製造・販売、およびサービス事業（App Store、Apple Pay、iCloud等）。2026年度第4四半期（7-9月期）決算では、9月期としての過去最高を更新しました。iPhoneやMacが好調で、サービス部門も過去最高を計上しました。25億台を超える稼働端末基盤と高利益率なサービス事業の成長力に対して投資家から高い信頼を得ています。			
5	FAST	ファスナル	5.0%	0.258%
	ボルト・ネジなどの締結部品（ファスナー）、工具、保守・修理・操業（MRO）資材の卸売およびサプライチェーン管理ソリューションを展開。 2026年第3四半期決算では、予想を上回る好調な業績となりました。顧客拠点内に設置する自動販売機型在庫管理システム（FMI）の拡大が顧客囲い込みに寄与しており、高い営業利益率に加え、製造業・建設業の現場に直結したオンサイトモデルによる高い参入障壁が評価されています。			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース）　寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	LQDA	リキディア	3.7%	1.409%
	肺動脈性肺高血圧症（PAH）などの希少心肺疾患向け治療薬を開発するバイオ医薬品企業。主力製品である吸入ドライパウダー製剤「YUTREPIA（トレプロスチニル）」の市場浸透が進み、四半期売上高が急拡大しています。2026年9月には全身性強皮症に伴うレイノー現象の治療に関し、FDAからファストトラック指定（優先審査指定）を受けるなど、適応症拡大に向けたパイプラインも順調です。長引いた特許紛争の懸念が払拭され、商業化フェーズでの大幅な収益拡大と新適応症の開発ポテンシャルが高く評価されています。		
2	BTSG	ブライトスプリング・ヘルス・サービス	6.7%	1.051%
	高齢者や複雑な医療ケアを要する患者向けの在宅ケア・コミュニティケア、および特殊薬局ソリューションを提供。2026年第3四半期決算では、大幅な増収増益を達成しました。レバレッジ比率（負債比率）も1.79倍まで低下し、通期見通しの上方修正が発表されました。特殊薬局部門での利益率改善と、高齢化に伴う在宅ケア需要の長期的な恩恵、さらに順調な債務削減が進んでいる点が高評価を集めています。		
3	W	ウェイフェア	8.5%	0.998%
	家具・インテリア・家庭用品に特化したEコマースプラットフォーム。2026年第3四半期決算で は、業績が大幅に上振れました。アクティブ顧客数も前年比5.7%増の2,220万人へ回復。物流網の最適化や実店舗展開が収益改善に寄与しています。コスト構造の改善によるフリーキャッシュフロー創出能力の回復も評価されています。		
4	RBRK	ルーブリック	11.6%	0.905%
	ゼロトラスト・データセキュリティおよびサイバーレジリエンス（ランサムウェア対策・バックアップ） SaaSの提供。AIの急速な普及に伴うデータガバナンスとセキュリティの需要を背景に、サブスクリプション年間経常収益（Subscription ARR）が前年比30%台半ばのペースで成長しています。Predibase買収を通じてエージェント型AI向けの安全対策ソリューションを展開し、高粗利率と健全なキャッシュ創出を維持しています。 サイバー攻撃を受けた際のデータ復旧・保全において確固たるポジションを築いており、継続的な売上高成長と利益率の改善が高く評価されています。		
5	CVNA	カーバナ	7.6%	0.645%
	オンライン中古車売買プラットフォーム。2026年第3四半期決算では、売上高・販売台数共に過去最高記録を更新しました。AIを用いた査定・価格設定と独自の配送網の効率化により、高い車両あたり粗利益を維持しています。中古車市場の全体環境に左右されず、圧倒的なシェア拡大とスケールメリットによる利益体質を確立した点が好感されています。		

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S＆P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色１：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色２：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

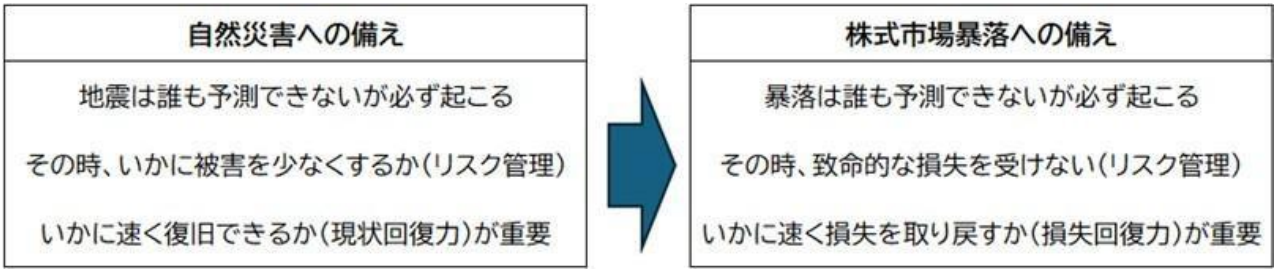
特色３：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色４：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S＆P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS 安定」 ×「財務健全」 ×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株（Next Major）

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	１年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

② 個別銘柄の組入比率は、原則として1銘柄当たり10%を上限の目安として運用しています。（ただし、株価変動等に伴い、組入比率が一時的に10%を超過する場合があります。その場合には、売買コストや市場動向、ポートフォリオ全体の状況等を勘案し、適宜リバランスを行います。1銘柄、10%以上保有しないようにしています） ③ 特定業種に偏重しないようにしています

④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています

⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年11月6日時点の情報に基づき作成されております。

（提供：株式会社スマートプラス）

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH(ウェルスグロース)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。 J トラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

＜業務内容について＞

J トラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【J トラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供される投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

＜手数料など諸費用について＞

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

• サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。 ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Ｊトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(2)第31946号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人金融先物取引業協会